

“こども病院ボランボラコの会” web 会議 & 年間報告

—公益財団法人キリン福祉財団助成事業—



WEB会議プログラム
開催日 2022・3・5 (土)

- ★コロナ禍に「おけるボランボランティア活動
- ① 神奈川県立小児医療センターボランテ
- ② 埼玉県立小児医療センター
- ③ 神奈川県立こども医療センター
- ④ 静岡県立こども病院
- ⑤ 大阪府立母子総合医療センター
- ⑥ 沖縄県立南部医療センターこども医療
- ⑦ NPO病気の子ども支援ネット遊びの
- ⑧ 公益財団法人キリン福祉財団

参加施設

- ① 宮城県立こども病院
- ② 埼玉県立小児医療センター
- ③ 神奈川県立こども医療センター
- ④ 静岡県立こども病院
- ⑤ 大阪府立母子総合医療センター
- ⑥ 沖縄県立南部医療センターこども医療
- ⑦ NPO病気の子ども支援ネット遊びの
- ⑧ 公益財団法人キリン福祉財団







“こども病院ボランボラコの会” 総会と情報交換

第10号 2022/3/25 発行
事務局 東京都新宿区若松町 10-1-302
☎080-5527-4379 代表 坂上和子
<https://boranboraco.jimdofree.com/>

主な報告 事務局より

- ★WEB会議を開催し、各地のこども病院のボランボランティア活動の実態を報告しました。
- ★神奈川県と埼玉の2病院のボランボランティア活動の報告があり、裏面で内容を報告いたしました。
- ★事前にアンケート用紙を配布しておりその調査結果が報告されました。
- ★今年度は会の名称が変わりました。「小児医療施設ボランボランティアコーディネーターの会」から「こども病院ボランボラコの会」へ。
- ★ホームページが公開され、動画がアップされています。
- ★NPO法人ホスピタルフットボール協会助成金「リトルポケット」さまより療養環境の向上に對して6万円の寄付があり2病院に届けられました。
- ★ランドポート株式会社さまよりランタン百個をいただき、8病院に届けられました。また同社よりマスク1万6千枚が寄せられ2病院がいただきました。
- ★(株)ポケモンさまよりポケモングッズが7百個寄贈され、7病院に届けられました。
- ★CD「ギターで歌う童謡唱歌」(歌落合さとこ&ギター笹子重治)が8病院に寄付されました。
- ★今年度はホームページを作ったことで寄付が増えております。事務局とコーディネーターたちはコロナ禍において少しでも子どもたちの療養環境が損なわれないようにその調整をしております。また、「ボランボラコ新聞」をお読みいただいた病院から問い合わせもいただいております。コロナ禍でボランボランティア活動は停滞していますが、そうした中でもやれることを模索し、知恵を出し合っ
- て少しでも子どもたちのよりよい環境作りのため前向きに進みたいと考えています。
- ★本事業はキリン福祉財団の助成を頂き運営されております。ホームページの作成やズーム環境の整備などはこうした助成のおかげで助けられております。

“コロナ禍におけるこども病院のボランボランティア活動実態調査 (アンケートより)

<p>ボランボランティアによる病棟内活動 (職員による代替は除く)</p> <p>0 施設 / 6 施設中</p> 	<p>ボランボランティアによる外来での活動 飾りつけ</p> <p>4 施設 / 6 施設中</p> 
<p>ボランボランティアによる外来での活動 遊び相手</p> <p>0 施設 / 6 施設中</p> 	<p>ボランボランティア室・在宅での製作活動</p> <p>5 施設 / 6 施設中</p> 

- 1, ボランボランティアによる病棟での活動はなし。再開の見通しもない。
- 2, 外来でも、患者ご家族との接触が少ない「飾りつけ」は可能。
- 3, 外来での直接的な触れ合いがある「遊び相手」はできない。
- 4, 患者ご家族との接触がないボランボランティア室や在宅での製作活動は可能。

コーディネーターらの声

【コロナ収束後にやりたいこと】
・徐々に以前の活動(イベントや病棟活動)を再開したい

- ・子どもの見守りや返却コット、荷物運びなど外来でのお助けボランボランティア
- ・ボランボランティア同士の交流
- ・ボランボランティアと病院職員の交流
- ・外部ボランボランティアの実訪問の受け入れ(楽器演奏、人形劇、クリニクラウン)
- ・病棟での移動おもちゃ図書館
- ・ボランボランティアの研修や勉強会
- ・ボランボランティア全員で活動する

【紹介したいこと】

- ・ボランボランティアにどうしても復帰したくて、一度もワクチン接種経験のない方が活動条件だったコロナワクチン2回接種をわざわざ受けてきてくれた。(宮城)
- ・面会時間終了し消灯までの間に、子どもたちに本を読んだり話し相手をしたりする「ぬくもり」という夜間読み聞かせボランボランティアがある。(静岡)
- ・中庭の飾り付けを市内の教会メンバーが管理してくれている。(静岡)
- ・保育士資格を持つボラさんが職員になり、きょうだい預かりの活動がさらに充実した。(神奈川)

- ・毎日のように通ってくれている園芸ボラさん。コロナ禍で患者さんをきれいな花々で迎えている、と地域誌にも掲載された。(大阪)
- ・幼少期から難病を抱え、現在も入院を繰り返しながら活動してくれるボラさんがいる。彼女の存在は患者やその家族にとって希望になっている。(埼玉)

コロナ禍におけるこども病院のボランティア活動報告（2病院）

連れて来ざるを得ないきょうだいたちに何かできないか（神奈川）

神奈川こども医療センター
オレンジクラブ代表 三木美雪

2020年コロナ感染症が全国的に広がり、オレンジクラブの院内での活動も制約を受けるようになりました。会員の方々に正しい情報を発信する為、こども医療センター総長、ボランティアコーディネーター、オレンジクラブ代表、副代表の3者で、コロナ禍での基本的活動方針を話し合いました。病院側の見解、なぜ病棟活動が禁止となるのか、どの様な活動ならば継続可能できるか、院内のコロナ患者受け入れ態勢、コロナ感染症の対する感染予防対策等、お互いの意見交換ができました。緊急事態宣言が発令された時、院内でクラスターが発生した時は会員にすべての活動の自粛をお願いしました。2022年1月19日神奈川県に蔓延防止等重点措置が発令されてからは、①ボランティアルームでの飲食の禁止、②ボランティアルームで少人数で活動をしてもらう。感染対策の警戒レベルを1段階上げて活動をお願いしました。1月31日からさらなる感染者の増加のため、活動の自粛をお願いしました。



神奈川県立こども医療センター
VC 非常勤1名 1975年～
Vol登録者約350名 27グループ

活動内容：外来案内、図書館、絵本の読み聞かせ、車椅子点検、清掃、花壇の手入れ、館内装飾、縫製バザー等

活動理念

- 1、自発的意思に基づく。
 - 2、無報酬で活動する。
 - 3、活動は、義務と責任が伴う。
- これらの理念を念頭に活動

緊急事態宣言が発令されてコロナ禍での、外出制限、マスク着用、手指の消毒、今までの生活になかった制限が加わりストレスの多い環境になってしまいました。ましてや入院、外来で病院を訪れなければならぬご家族の不安なお気持ちを、少しでも和らげる季節の飾りつけは生活に潤いをもたらしています。オレンジクラブでは、お正月飾り、絵馬、つるし雛、端午の節句、七夕飾り、水族館飾り、クリスマス飾りを総合待合、院内に飾りました。記念撮影をされるご家族もいます。ほほえましい光景で、ボランティアも心が和みます。一方で医療最前線で活躍されている看護師の皆さんに、心を込めてプレゼントをお渡ししました。プレゼントは、手作りさんが在宅で作ってくれた、エプロン、袋物、マスクなどを贈りました。講堂を利用して、各グループ代表と医療センターの総長、事務局長、病棟看護職員が年2回話し合うボランティア運営会議が、密を避ける理由からできなくなりました。オレンジクラブでは、何とか医療スタッフとのコミュニケーションの機会をもちたいと考え、各グループに呼びかけ、リモート会議を



開催しました。初めてリモート会議に参加される方もいましたが、新しい試みに挑戦しました。また病棟保育士さんのご協力を得て、在宅でできる、きょうだいのための折り紙キットの製作、60枚のクリスマスカード製作を在宅ボランティアにお願いしました。コロナ禍での課題としてとくに取り上げたいのは、きょうだいあずかりのボランティアができなくなっている現実です。中にはどうしてもごきょうだいを連れてみえるご家族もいます。その場合、こども同士が外で遊んで待っていたり、患者図書室で本を読んで待っていたりしています。館内放送で「きょうだいの入館をお控え下さい」と流れるたびに何かできないかと考えます。病院側としてはコロナ感染のリスクを減らすための対策と位置付けていますが、一般の患者さんと交わらない様に入口を変えるところ、病棟から離れた部屋を提供する、あるいは完全予約制で人数を制限するなど知恵と工夫を凝らして何とか再開できないかと願っています。

グループLINEでボランティアとつながる工夫を（埼玉）



埼玉県小児医療センター
VC 非常勤1名 2017年～
Vol登録者数97
病床数316床

活動内容 外来（子どもと遊び
や家族支援） 園芸 イベント
図書 病棟 ハンドトリート
メント 折り紙プレゼント 装飾



埼玉県小児医療センター

コーディネーター 富澤真麻

新型コロナウイルスによって、当会も令和2年度に2回、緊急事態宣言発令に合わせて活動休止期間を設けました。徐々に再開し、でも活動人数は上がったりがたりしながら、今年2月の総活動時間は通常期（コロナ前）同月の約2割でした。

この2年間のコロナに絡んだ活動の変化は次の通りです。

- ・活動日の健康チェック入力
- ・ボランティア通信、グループLINEの開始
- ・いきいきボランティアポイント事業（さいたま市）の導入
- ・病棟へのクリスマスプレゼント製作

・（外来）清拭消毒。おりがみプレゼントの中止。

・（ソーイング）人数制限。食事禁止。
・（飾りつけ）飾りのパウチ。ビンール包装。

・（あそびの日）工作、ハンドトリートメントの中止。

なかでも、今回話題になったのは、グループLINEの導入についてでした。

コロナ禍では、感染状況によって

日々体制や活動に変化があります。毎月1回配信するボランティア通信ではタイムラグがあり、コーディネーターは週3日出勤なので申し送りが不十分、さらに活動自粛されている方は変化についていけない。そこを埋めるためにリアルタイムでの連絡ツールが必要と感じました。また「活動を伝えたい」「感謝を伝えたい」「みんなでも共有したい」という気持ちも強く、その場で写真が送られて、馴染みのあるLINEはスマホが苦手なボラさんにも受け入れてもらえると思いました。令和2年10月から始めて、現在45名の会員さんに入っていたいただいていきます。活動の様子を写真とともに載せたり、変更事項やイベントのお知らせ、スタッフや患者さんからのコメントもその場で伝えられます。「毎日ピコピコよく鳴るのよね」と苦笑いの方もいらつしやいますが、大方「がんばっているみなさんの様子が知れて楽しい」「病院の様子がわかると活動が再開しやすい」「見てももらえると、応援してくれている感じがする」など好評です。